莠叟雜鈔

八

836
10
15

国立国会図書館　タイトル『莠叟雜鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

莠民雑鈔

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

長野縣

一の中款

第二十條の規定に基き左の事

一旦縣廳より面會を求めたる者

會せざるとき又は通知を受けて

正當の理由なくして出頭せざる

一士族又は隱居若しくは家を

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

布可事件
別紙何之通

一士族卒武之面並許可
之事件一之布可論等
義之義許

別紙何之通

一布告論之駐之事
東京在留之
人民可達事

一旧駐士族之面許可修行
度志望之処屋敷修復
何之布可事

別紙何之通之面之布告
之事

立願之事件
本件之布可之旨届出
候也

元阪山縣

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

真田家御武功記録

真田彈正幸隆法名一徳

武勇被茲ニ一徳ヨリ一翁子雲好白一中四公之事ヲ記ス諸本真田武功記皆同
故今略ス

御尋之節御書上ノ記

寛永十八年　書上ヶ真田系圖附録寫諸本皆同文(一本真田五代記ト題ス)

一説古海野系圖　真田系圖古来別本也此時合テ一系統ト爲シタリト云

大正
9. 5. 27
購求

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

真田御家御武功記録

一上州沼田真田安房守様伊豆守様御在城之刻我妻邊一北條安房守切々働出し或時仙人の岩屋と云所へ北條安房守出迎被成北條安房守手錄騎之人數小伊豆守様漸く貳百計之人數そ、安房守先勢と悪被為討捕御勝利依有之御引取被成候處必至と喰付まくいを遁置而敵喰とめまくし章退しくし可申由被仰合能程とも合せ伏勢の者とも御手前と一度つ御返し退所と云、北條衆最前のごとく退所と追討小數多被為討取候而其後北條衆彼所へ働を止申候是伊豆守様御手柄を儀ハ富永主膳殿又北條衆そ被参仙人の岩屋にて伊豆守様御働之後つ御

直談ニ伊豆守様、被申候而御働を言ヲ外感心被致ハ富永主膳殿又波賀伯耆守衆の由

神川

信州小縣上田御籠城之時家康様ハ甲州若神子迄御出馬被遊御先勢上田ハ段ニ押寄申ハ壹万餘の御人數ニ而此方ハ貳千不足ニ御人數ニて右之御人數御引請被成候先房州様兼て御合戦之御手段ニ御手廻五百計ニて御城大手之御門際ニ柵ニ而段ニ御手ニ而

こゝへゆあん敵を走らしゆるやう勢て房州
ふし町を焼き払ふ故房州の様御計策と仔細
諸勢ゝ突出切廻り候故三河衆討死神川を際まて御逼合有之
房州様ニ本道を御働候 伊豆守様御勝利有て神川て横鎗を 仔細 伊豆守様御勝利と申傳
候て 伊豆守様御勝利有て神川て横鎗を 仔細 伊豆守様御勝利と申傳
ゆへ此節之義ゝ 倩神川ゝ敵お渡退ゆへ市切廻りゆへ由依て御首能程と
見合又突駈申候 其頃神川の水影鋪満水ニ三河衆大勢水ゝ流死
申候其中ゝ鳥居彦右ニ門夜衆大勢相果ゆ由 三河御先衆大久保七
郎右衛門夜 鳥居幾左ニ門夜牧野右馬允夜ケ松の衆ゝて後御加勢遠
ゆへ井伊部夜衆横須賀衆ゝと計被ニ系ゆ 曩根内匠夜ニ枝勘

解由夜大久保次郎右衛門夜後又 龍右衛門
向ゆ此外ニ衆ゆ覚不申ゆ岡部内藤夜其年拾五歳ゝて被ニ系深ケ馬
場ニて被ニ為ゆらるゝゆとて 家康様ゝ御感被ニ為下候由信濃衆仙
石夜諏訪夜ゝと為ニ案内ニ系ゆ由ニ三河衆北方ゝ夜討捕人数ニ百
弐拾人 倩北方ニて討死ニ負ゆかゝて貳拾ニ人ゝり天正十三
年ニて酉九月 伊豆守様ゟ御時ニ御舎弟九郎右衛門佐様ニも名改ニ
御備ニ変
右之御合戦有之而六拾日 御家戦有之其後ゝ三河衆終ニ 不申ゆ 伊豆
守様ゟ節御物見ニ参遣ゆ而上申ゆ武里程ニ為ゝ 御歩被成候ゝ敵 熊見
知ゆ近ニ夜ゆり申ゆゟ御供ニ三騎ニて能く御引取 被成候是ゟ大事の

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

御物見を被成御ら柄の由其頃之申慣ハ由之古文

一神川御一戦之記ハ伊豆守様常ニ御物語り切ニ承覚申候分者

上野信濃両國　家康様小田原北條攻両方より御争之其後御和睦之取成

信濃之儀ハ　家康様ハ御知行被成上州を北條攻ハ御取被成候約

諾之候然ニ沼田之儀ハ上州之内ニ候ハ境目之河北條攻之御渡被成候由

家康様北條攻之御断之節ハ　唐州様へ被仰候ハ

有之儀ニ付伊奈郎ゟ可被遣由ニ候へ共先沼田を被相渡ハ而後ニ代地を可被

遣と有ゟ　唐州様急心度御得心不被遊御多切有之其子細ハ惣而　唐州様と

御ニ之舗被思召ゟ様ニ時節を幸ニ被成候沼田ニて北條攻之被申上候ハ

被為成ハ候ハ御ニ家康様思召之物ニて　唐州様御

意得被遊ニ由ニ候右之意趣を　唐州様家老衆先御旧臣之面ゝ被仰聞　家

康様ゟ如此ハ仰ハ何可有之哉と御評定ハ候得ハ沼田ニ代地ニ被遣ハ

成ハ御墓被成孫御大身ニ被為成事ニ候得ハ沼田ニ代地ニ被遣ハ往々御為宜

ハ申上候　唐州様御意ニて莵角此方ニ儀　家康様御ニ之敷御思召

候間沼田を北條攻ニ相渡ハ可被置上ニ御座ハ又上田ゟ如何ハ有之

哉ゟ被仰候ハ御家頼衆一同左様ニ理不尽成儀有之間敷候若左ゟ

於ハ者ハ其節ハ一命を捨上所ニ御座ハと申上ハ　安房守様御意ニハ

各後ニ身命を捨上ハ今死を軽して忠義を争ハ一由被仰ハ間次而御

機嫌悪ハ御勘城ハ遊ハ由ハ沼田ハ矢澤薩摩ニ被渡ハ上田同前勘城

一神ハ御合戦　唐州　御父子御二人　大閤様御出陣ハ　大閤様御取

抔て家康様御和睦ニ成。御父子様御出仕ニて由ニて小田原陣ニ莂家康様と北條方ニ國切ニ御定 大閤様より計遣候ニ付沼田ニ儀上刕の内ニ候間北條殿、御存知代地伊奈郡ニ而御請取被成候。其後北條殿不被遂出仕ニ付ニて大閤様御後詰ニ被成候由ニ而小田原陣ニ第一御手柄有之故沼田ニ而ハ如前ニ御返し被成候。

一川中島御働之節

一甲州没落以後河中島ニ越後景勝為所領事有之其刻松城ニハ真糟近江守在城也 伊豆守様上田より度々御働出被成。御敷川或ハ丹波嶋迫追御働出御成。敵モ出迎御攻合有之御家頼衆被申上候ハ松城之西北ニ候得ハ敵跡を取切り申候ハ御大事之由度々諫申上候ハ此御働斉相止候間後ニ越後方ニ而ハ敵存之南上田御領分ハ相後候間

此方ニ以来御出不為成様ニと義ニて父代より南之方上田ニ而ハ御取被成候ハ是ハ伊豆守様御働之由古老の者共申傳候武刕忍の城ハ出ヲ被ヲ

（武刕より別帋ニ而可ニ慶長十八年書且ハ事ニ）

一相刕小田原ニ大閤様御出馬北條殿所持之城ニ加賀の前利家奥州景勝房州様伊豆守様左衛門佐北関東表ニ御出被成。於所々城責有之由被御父子様御軍内ニ候ハ而御先陣之由。先ハ碓氷峠より関東ニ御出被成候松井田之城ニ立てこもる松田大道寺と碓氷峠ニて称名と号すて御攻合有之其後本よりて原ト云ニ松井田のむかいニ御陣御座ありと被成候御攻合有之其後松井田ヲ抔て城ヲ明渡ス。それより方々城責有之方々城ハ降参ス。武刕忍の城ハ伊豆守様出ヲ被ヲ無理ニ御和入ニ御成ら被

御供を　房州様抔へ御制止被遊候つゝ若キ衆二三拾騎ゟ外ニ
被成候横矢ヲ打申候鉄砲まて地方の衆ゟ数多討死仕候
一忍の城主成田家臣妓巻勒負
一大谷様ゟ御遺候御書ニ京勝利家令相談候一由御文言有之ニ小田原御
陣之時之由
一伊豆守様御拾七歳御初陣之御陣之前ゟ伊豆守何時ニ御先陣
を御願、或ハ半道壹里ゟ房州様ゟ御先ニ御引放し被成候由依之
伊豆守御成長之後ハ何時ニ御先ハ伊豆守様ゟ遊ハされ御手をくだかれ
由木村土佐大変喜ひ申ニ其ゟ喜光ゟ直ニ御陣之前ゟ伊豆守様ゟ遊ハされ御手をくだかれ
一関ヶ原御先発之時　房州様石田治部少輔ゟ被合御心御謀叛被成候
奥州景勝依謀叛為御誅討　家康様下野小山迄御出馬　房州様
伊豆守様　左衛門佐様ゟ小山迄御供被成候然所ニ於上方治部少輔企謀叛
伏見大津二ヶ所御城責落上方刮乱之由御註進依有之　家康様ハ小山ゟ
江戸ニ先ツ御帰城　御遊、其ゟ関ヶ原御出馬　安房守様ハ治部少御
味御遊候ニ依て城戸ト云処ゟ御引返被成、上田御義堪被成候を
秀忠様上田御進發被成サて御勝利ニ付治部少輔御成敗　房州様御一命之儀
伊豆守様其節御忠節ニ被遊　房州様御一命之儀ニ付御礼ニ　安房
守様ニ治部少輔ゟ御詫言被成候由　伊豆守様御神
忠節御国ニ可ニ進御約諾ゟ御大臬ニ被成候ゟ

房州様御亡失被遊候ニ付、各詮義ニ付、
身上にかゝり候ニ付、御作紹ニ付遊候 右ニ付御思案又ハ御思考御
感心ニ付遊候ニ付 房州様御命御赦免ニ成候ニ付
此節より 権現様へ一當様へ進候 御
御取立可ニ成由御文言有之 井伊兵部少輔殿より之書翰と
此節ニ遣候
一夜討勝利之事 一大将めんをうの中ニ一毛衣之事 一簑の指物の
右口傳
一三まセ合戦ニ信玄ニ、房州様ニ得御意事
一神川御一戦之時 房州様御墓被遊候 御相手梅津長右ニ門

一神川御一戦ニ頃 塩田そゞしかゝの要害ニて水出大藏ニ一言常々
伊豆守様御褒美之事
一鈴木主水悲死是ハ沼田の内なくてその城ニ御預ニ成候 房州様
ニ主水を被召出中山の城主中候ニ付ニ而ニ水出行ニ付ニ依ニ而ニ北
條ニ忠節ニ付その由義ニ而水出中山ニ城主ニ指ちがへ可討果覚
悟ニ而城主合点いたし城主ニ出不申候故無是非切被仕候。中山ニ城主ハ
ニ而水出ニ而討果
一木村土佐十六歳ニ而御成敗ニ者有ニ而被仰付討手の者ニ先ニ行ニ而初
太刀ニ仕ニ名ニ而業数度覚有ニ
一同人中山ニ覚是ニ田口久五衛門ニ相討

一土佐五郎右衛門中山覚此外數ヶ度之儀中山ノ時ハ五郎右衛門
秘藏ヲ家頼ヲ者討死
一神川御一戦之時、望月主水一言之事是ハ神川ヲ何ニもこらへ兼引退時
追駆働ヲ所敵新手ヲ入くる来ルヲ
第望月主水大音上ヶて此ノ流ノ末ニ
ヲ向いざうへし合討死せよとて引くし候へバ惣勢も競ひ返しハ故又敵
ヲ追討ヲ仕業
一森武藏守ヲ松城拝領之時在城ヲ仮処信長御生害故上方乱國ニて
國々ヲ劇乱ニより河中嶋ヲ者ヲ悉心変逆心ヲ由出頭勘馬ヲ
人忠義武藏守ヲ上方ニ引上被申処ヲ幸續村ヲ送ヲ忠義ヲ
立ていとて武藏守ヲ飛見とて脇刺ヲ勘馬ヲ被遣勘馬儀ヲ川中嶋ニハ
並方ヲ忠信とて廃衣義被申ハ由。
一武州忍の城攻の時勘の日影鋪浅水ニて諸軍ヲ人ヲ用意ヲ所出頭勘馬
夜半ヨり御陣所ニ相詰在ヲ已ヲ他の陣ヨり城ニ入ハゆへ唐州様被
御召人ヲ被召ハ得ヲ其日の浅水故諸人油断仕ヲ人ヲ不案然ハ
處ヲ勘馬相詰ハ由被申ニ先ヲ御先ニ参ハ一由ニて勘馬ハ遣ハ得ヲ早や
浅野弾正ヲ威勢ヲ震ひ人数ヲ出し支寄ヲ陣ヲ押詰つゝれハゆヲ付勘馬
人数ヲ入替ヲ鉄炮きひしきヲ間ニあより女所ヲ勘馬特堅めハ由其
後出丸ヲ仕ヲ寄様御座ニ成ハ
一遠州濱松合戦ヲ時勝頼公御勘ニて赤澤嘉兵衛覚其外數ヶ度ヲ名

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

一代ヲ首數廿五取、是當ト、一當様御咄御家中覚有之衆數多之由
誰ヲ多ク覚不申ト由
一右之外板垣 横井勘左衛門 石井舎人 白石 塚本與右衛門 高梨外記
三輪琴之助 田口久左衛門 此外聞覚次第追而書加可申ト
一勝頼公甲府設置 天正十子年ヨリ
一越前江州境志津ヶ嶽合戦 天正十一癸未年 廿七本
一安房守様神川合戦 天正拾三乙酉年ヨリ
一家康公小田原陣 天正拾八年庚寅年ニテ
一大谷様高麗陣 文録元壬辰年ニテ
一関ヶ原陣治部 慶長五庚子年ヨリ

於大坂高名覚 沼田衆之分

一首一ツ 湯本三左衛門
一同 塚田角兵衛
一同 原 監物
一同 原右近
一同 荒井刑部
一同 沈田甚左エ門
一同 加茂大膳
一同 次田庄九郎
一同 市場茂右エ門

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

一同一ツ

一首七ツ　手前同心ヲ

一首一ツ

一同一

一同一

一同

一同

一同

一日ノ討死上田衆

業田刑部

矢澤但馬

大澤源太兵衛

加茂仁左エ門

鈴木主水

戸井弥右衛門

児玉茂兵衛

村正右衛門

常野図書

討死

上田衆

春原六左衛門

同　孫右衛門

鍋嶋市之丞

壬月末半右衛門

小泉仁左衛門

石井舎人

戸井善右衛門

同　西左衛門

討死

矢田十三

神津主水

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

手負之覚

原郷左衛門

恩田左来

駒田雅楽

羽田権左衛門

蟻川久次郎

青木玉治

横屋惣右衛門

鎌原石見

湯本三右衛門

討死之覚

堀田角兵衛

依田春之丞

清水與右衛門

九山九助

敷田長九郎

鈴木九右衛門

一、次男 須田

一、高野権右衛門 名字不知 牧右衛門

此間落紙有之不当 追而可考

飯嶋市之丞

樋口儀右衛門

一、江戸二代り 松村 九郎右衛門 名字不知 但シ 傷ヲ請シ帰リ 後ニ討死ス

一ノ屋

同日

加茂仁左衛門

鎌原石見

湯本三右衛門

我妻海野能登守

名字不知 右近

一戸州様高野ゟ御入湯遊ハ節武功之士ゟ同御供仕候ニ付廿六人

上田御籠ゟ時高名ゟ侍ゟ御供仕

池田長門

原出羽

高梨内記

小山田治右衛門

田口久右衛門

窪田角右衛門

河野居右衛門

春原市右衛門

飯嶋市之丞

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

一神川合戦之時大水出而軍兵捨
命逃去
一石井仁兵衛
一前嶋作兵衛
一関口喜兵衛
一三井仁右衛門
一大瀬儀八
一青柳清庵

右五人

一水をせきとめ相図を以て水を放しかけさせられ候故右之通大半流死
一侯是迄 安房守様御智略
一謀被遣候由一ツ之口傳ゟ

真田左衛門佐様御武功之事
一左衛門佐様影武者ト云平世被仰付候事一ツ二ツ望月宇右衛門二ツ完山小助両
人年齢面貌姿帯風体ニ至迄左衛門佐様ニ異ナル事無之。依之甲冑弓矢衣裳太
刀小刀等ニ至迄大将ト之人同様深秘傳之由
一明石掃部父其引取時左衛門佐小勢ニて殿ヲ成其小返ス成追返
敵百三十余討追崩引取ス成事

左衛門佐様御手勢日記ニ依之御人数之分

一鉄炮百挺　人百二十人　頭　石井六郎兵衛
一筒十　人二百人　頭　望月三右衛門
一種島五十人六拾人　頭　印井久右衛門

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

一持筒十挺人十二人
一弓三十挺人六十人
一半弓三十挺人三十六人
一持弓五張人六人
一長柄五十篇人六十人
一持鎗三筋人六人
一騎馬十騎人七十人
一大旗小旗、役人二十人
一使番侍拾余人
一歩行士五十 内二十 擔者

頭 宍山五郎四郎
同 木曾弥左衛門
同 河勝内匠助
同 小山田庄三郎
同 木曾弥三郎
同 修験嶋藤次郎
同 伊勢崎友五郎
同 真田主税助
同 松代市兵衛
同 士大夫

一刀心士二十人
一大鼓役人四人
一鉦姓八人 内六人 四人
一足輕五十人 口二十人 普請方
一中間百人 内四十人 普請方
一祐筆二人 醫師二人 外治三人 同明二人 茶道三人 庖丁二人 其外
役人 用人五人 兵粮奉行 金銀支配 勘定役等十人 火廻番夜廻番
夜昼、横目 有候之役人等、遠眼鏡見と云ル有之此等の役人廿余人
此外鍛冶 番匠 菅師 壁塗 疊指 漆工 漆工此外繪師紙工武具馬
具の繕役二等万事不事欠抔ゟ數ヶ書ヒ置事

同 根井浅右衛門
同 檜河弥松等
同 小山田右近允
同 根井甚兵衛
同 角内(俗名直菊)久兵衛

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

一手迎の人数合千余人 都合郭中合三千余
一城より加勢四五千人不斬壹々而楯籠り 茶臼山の当城にて
一大坂より落城時も御門徒様出丸を引之大敵と不思其法式ゆと不緩静
而忠義震武威被成候有様可為武士者感心せさるなし惣勢引取
ゑ本陣。元来殿りの志さしてられ
一大坂勢不和にて評議相違し刻、秀頼公御出馬延引しられば。此の世の中
今ハ是迄と思ひ切るも真田伊木七郎右衛門を招て何也かくて在
可きや一戦して討死を遂とそ
日之合戦と思ひ子息大助
年十三才
其供やられたるを思ふ子

細有ル間陣所より城中へ返さるゝ。庭訓を残されるハ柄檀ハ二葉
より香く迦陵頻伽鳥ハ卵の中に在て声衆鳥に勝ると云傳へり況汝
既ニ十有三性を天地の霊にたる人とる物ロ一言耳ニ留ら
ハ我の教訓を違ふ事なし。今度の合戦残天下の安否と云ならま方
の滅亡今日と過屋ならん。今生ての汝の顔を見る事ハ是を限りる事
討死ハ秀頼卿ハ御生害有へし汝一旦ハ命を助らん者に父の両年
の忠節を捨て降人に出る事有へからず速に自害して父と共に死出の
御先を仕ル口口て我ル今日の中を過くやすらんれハ。再会の期久らし
汝を我ゝ眼前にて討死をとゞさせ三途の大河の懸路さ不可しと兼て
思ふのとも未勇士ハ身ハ終る迄忠義と心得ル事を好て道と心ル

秀頼公若此度死を遁れ時節を窺ひ兵を起し會稽の恥辱を雪んと思ひ給ふ志あらば汝も亦命を全して一族若黨の子孫を引立扶持して君の先鋒に進み命を敵の矢鉄炮に勉め善道を守り討死せよ汝第一の孝行なるべしと泣々申含て互に訣別する恩愛こそ哀水

春院昔柿正成が敵軍都の西に至てぬと聞て國次に減んを悲て其子正行を庭訓を残し今眞田が軍利あらんを知り息子大助を城中に返し養育義を進ん柿が昔の老骸。是が来せの忠臣。時移り世隔り人皆日遠と雖有ども賢佐る。眞田其日の將表来ハ緋縅の鎧に抱角打物に自然分者を猪首に着し河原毛の馬の日頃秘蔵ちるに紅の厚総掻け六文銭の紋有たる

未地の鞍置て乗うり相伴人々にハ眞田與右衛門、御宿越前守正倫江原右近高次多田藤弥満範大谷大学吉隆名島民部平岡与五郎の口島玄蕃允藤掛土佐守同七郎右衛門を初として都合其勢一万余騎口唐山の坂上にて陣取り

天明二壬寅年十月十九日　　佐藤吉五十四翁写之

秀吏按天明頼母和代藩執権之時佐久郡望月城先之家蔵朝寺院ヶ為

政方

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

松代由来

一松代ハ元来清野屋敷也天文十六年丁未ノ冬武田信玄公川中嶋御手入

一同二十辛亥山本勘助縄ニテ御城御普請海津ノ城ト名附本城ニ小山田備中被指置二曲輪ニ市川梅印原与左衛門羅在

一弘治二丙辰歳右備中尼鈴ニ在城其跡ニ春日弾正被指置高坂賀事也

一永禄四辛酉九月十日川中嶋合戦有リ

一天正六戊寅高坂病死同越後景勝ト勝頼和睦依之越後被押不入故同八歳辰ノ歳ニ森沼津ニ高城源五郎在城

同地所在ノ古石塔ヲ望月氏先祖ノ墓ト号シテ引受修補ニ望月氏之系図ヲ作シ東鑑望月海野等ノ人ノ対手トスル歟ト見ヘシ称津氏ハ鷹之名家諸方ヲ祝代トシテ軍役ニ従事シタルヲ書収後豪世豊芳村上神津寺尾等信濃衆故ト叶看ルカ能ハス残国ノ衆ニ武田氏ヨリ甘言ヲ押歎シテ稍召知シタリ○又按ニ滋野朝臣本姓ハ楯原東人駿河守ニ滋野朝臣姓ヲ賜フハ孝謙天皇天平勝宝二年庚寅也其後二千五百年塔婆皇孫ニ於キテ男女皇子ニ滋野朝臣姓ヲ賜フ又二十年後和天皇ノ御宇ニ至リ望月ハ滋野氏藏本也蓋望月執政望月系真田家図ヲ傍整著述ノ頃佐藤信淵右筆也因之写誤ヲ書ヲ集タルニ因テ其子ニ写サレタルヲ可○皇胤子孫五年皇子ニ賜源朝臣姓云々抑滋野大伴高野武内等ハ神別姓神代上世ヨリノ人書同リノ種也神武天皇以後皇子王孫ノ後即皇別ナリ

故川中嶋留守衆計

天正（午）辰歳迫信玄ト勝頼ト二代ニテ三十歳特

一天正十壬午三月甲州没落織田信長公御手ニ入家來森正藏被指置

一同歳六月信長生害ニ付正藏上洛

一同歳七月上杉景勝手ニ入三歳須田相模守在城此時牧之嶋ニ芋川越前長沼嶋津淡路飯山ニ岩井備中在城

一慶長元丙申田九正（関田九）森六歳特（イニ関）

森右近在城此時（森正）（別行又ニ或人曰）ク待城ト云」

（二字低）此時山中方ノ一揆蜂ノ山ル故命ニ随ヒテ上方ヘ退クト也此意趣ア（同上ル）國故ニ右近ニ知行給ル時海津ヲノゾミ入部ノ再来故吾ヲ待ルト言心ニテ待城ト改依之入部ノ古ノ張本ヲ改五六十本鳥打峠ニ磔（カケルト言ヘリ）

一御領頭所ニ歳御代官平岡出雲

一慶長九甲辰松平上總介少将御入部此時松城ト改九歳特

或人言上總助ノ言ニ森林カ爲ニハ待城トヘシ吾ハ松ヲ貴スル家ナレハ松城ト改ト言リ

一同十一年午歳越後御加増ニテ御入國其跡御家臣花井主水被指置

一元和元乙卯歳少将殿御改易故花井主水死刑

一同歳松平伊与守入城同午歳越後ヨリ國替五歳御特

一同四戊午歳酒井宮内在城同八歳壬戌羽州ヨリ國替十歳特

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

一同歳十月二十日伊豆守信幸公御入部松城初テ子歳迄百三歳沼田ヨ
御入城ハ寛永十六歳七月二十五日ナリ
信幸公戌年上田ヨリ御入國酉歳迄三拾六歳
一羽暦三丁酉八月内記信政沼田ヲ御入部成二月五日卒
幸道公戌歳ヨリ幸道公御幼少ニテ御入部歳久シ
一延宝甲寅七月二十五日幸道公御入城
一享保十三申歳信弘公御入部
一信幸公　元和八壬戌歳御入部ヲ酉歳迄三十五歳
一信政公　明暦三酉年御入部二歳
一幸道公　御治セ七拾歳
一信弘公　御治セ拾歳

一六連銭由来ヲ壽永二癸卯年備中國水嶋合戦ノ時海野九代幸廣
幕の紋スヲ一ツ拾幕第海上ヲ六連の形ウツソリ是吉事ナリトテ矢
ヨリ附ルトゾ

一上田籠城後信幸公上田六万石沼田二万石領之
元和八歳四万石御加増ニテ上田ヨリ松城ヘ所替被仰付ル上田ヲ召上
上意ニ依テ伊豆守子ヲ数多持ル間知
行ヲ遣ハス遣ハス様ニトノ仰故ニ河内守三万石沼ヘ在城二男内記一万石ニ男
隼人七千石残ル八万石ナリ　河内守先逝ヌ卒
子息修理助家督無程卒セハヤ其弟兵吉　當歳成故五千石相續ス
残テ就万五千石内記ニ一万五千石隼人ニ七万石相渡沼田ヨリ松城ヘ
侍二十人右當ニ遣ス其後内記沼田ヲ引移信幸公隠居ノ第内

国立国会図書館　タイトル『莠斐雑鈔』　請求記号 836-15
ガラス使用

記家督有て沼田三方石兵吉ニ遣、後兵吉伊賀守ト改、不行跡
故御改易

一 房州公高野ヘ御入之節附添譜代衆
池田長門　原出羽　高梨内記　小山田治右衛門
田口久右衛門　窪田宮内　河野清右衛門　青木半右衛門
飯嶋市之丞　石井金右衛門　前嶋作左衛門　関口覚右衛門
関口右京　三井仁右衛門　大瀬儀八　青柳清庵
右十六人

一 上田陣之節家康公方ヘ本鑓
中山助六郎　大里四郎兵衛　若大夫ノ
朝倉藤四郎後筑後ト云　小野典膳　辻大助作　斎藤久右衛門
後忠兵衛ト云

戸田半平　治部右衛門
真田伊賀守殿　天和二年十一月廿二日御改易則奥平小次郎殿ヘ
御預ケ

于時天明三癸卯歳
九月七日写之

佐藤吉兵衛政方
十三歳ノ時ノ写

明治四十年丁未一月十日高野義史
九十歳写

兵事関係建築場所調

一練兵場

従前城郭附近火除地并山野等ニ於テ調練ヲ為ス
但シ別ニ仮設ノ兵舎ヲ設ケス

一弾薬製造所

城郭内武庫所属之場所ヲ以テ製造ヲ為ス
但シ

一火工所用之薬品庫ハ別ニ仮設ス

硝硫其分ヲ賣品ニ調用ス可キ事ニ候

一 従前ノ演廳

地坪五百九拾九坪程

建坪四百三拾九坪弐合程

但撃剣部分西ノ方ニ作足ス演廳ニ用候事ニ候

建物連属ノ地坪ハ明治 年相廃候事ニ候

一 弓術演習所

高百間程

一 剣術演習所 銃兵體練ノ手術等ヲ習フ所ニ候

建坪七拾弐坪

但高等学校ノ一所ニ有之別ニ表ヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

真田大内記信政

真田伊豆守幸道

真田彈正忠信弘

真田伊豆守信安

真田右京太夫幸弘

真田彈正大弼幸專

真田信濃守幸貫

真田信濃守幸教

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用

第三條

一城郭内立木左ノ如シ但シ郭外ニ於テ事ニ関スル諸件ノ取扱候地無之

立木総計八百拾六本

内

欅弐百弐拾壱本　樹高弐丈五尺廻リ

欅弐百弐拾壱本　樹高弐丈五尺廻リ以下

欅拾本　樹高弐丈五尺廻リ以下

一鉄壹貫目ニ付永四百文程越後表ヨリ求之

第十一條

一土蔵等土塁ニ用ル青石ハ木石等近郷皆神山柴山東条山土口山等ヨリ産シ青石六尺ノ價

上等　金壹分ト永拾弐文位

中等　永弐百拾文位

下等　永百七十五文位

木石當所ニテハ野石ト唱ヘ尺四方ノ石一ツノ價

上等　永百五文位
中等　永九拾三文位
下等　永八拾七文位

第十二條

一　近郷ニ産ル壹坪ノ價

上等　金壹分ト永弐百三拾壹文位
中等　金壹分ト永百八拾文位
下等　金壹分ト永百四拾文ノ位

公代舊廳ヲ修享保年間本城焼失ノ後
真田家旬貴ヲ以居宅取建任居ノ処ニ
還後右居宅ヲ以公廳ト
長より申出ニ付無要ニ
別判然相立居候ニ付
藩政取扱ニ候ニ
出有之候ニ付

長野氏
侍中

御尋ニ付申上

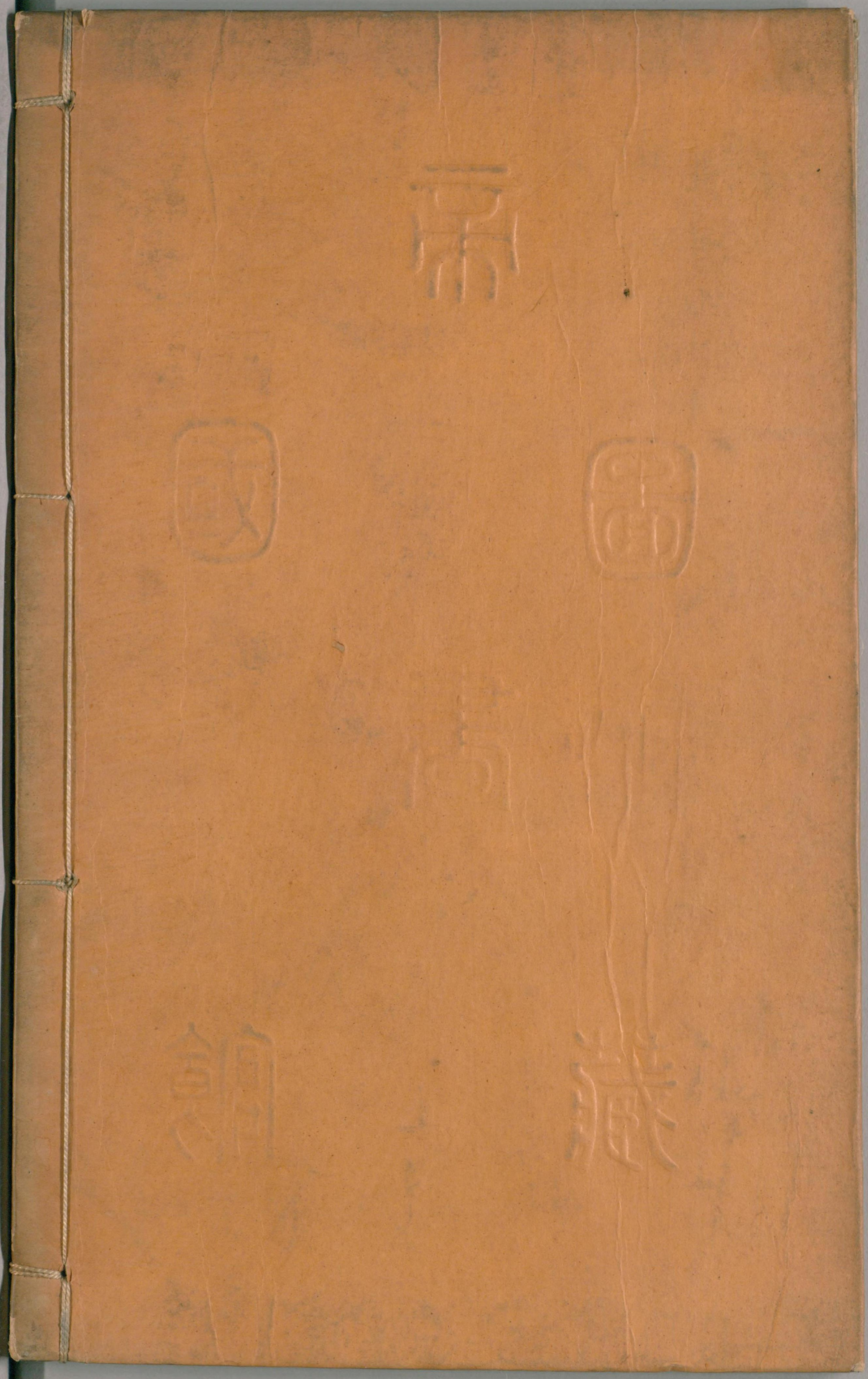
其代――於私邸高政義ニ委細ニ之
御達之義ニ候得共
此節享保年中本城ニ信長向焼失ニ付其節城
ゟ居宅ニ建住居家作仕候

十條

836
10
15

国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『莠叟雑鈔』　請求記号 836-15

ガラス使用